

奈良県農業信用基金協会

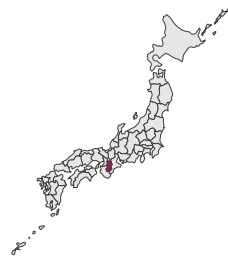
1 奈良県の紹介

奈良県は、西は大阪府、北は京都府、南は和歌山県、東は三重県に接しており、紀伊半島の中央の内陸部に位置しています。県北西部は、大阪や京都へは30分程度でアクセスしており、大阪府のベッドタウンとして発展し、県民の8分の1が県外へ通勤・通学しており、奈良府民と表現されることもあります。

1300年の歴史を誇り、「日本の国の始まり」とされ、「古の知恵」が現代に息づく日本で唯一無二の特徴を持つ奈良県は、遺産に囲まれ、国宝・重要文化財の建築・仏像が数多く残されています。観光名所としては、東大寺・興福寺、聖徳太子ゆかりの法隆寺が有名です。また、日本最古の道といわれる山の辺の道や、日本で初めての本格的な律令国家である藤原京、石像物の点在する飛鳥など古代ロマンあふれる魅力ある地でもあります。

こんな魅力たっぷりの奈良県ですが、大阪などとのアクセスの良さから、奈良は日帰り観光するところとされ宿泊客の少なさが課題でした。近年は外資系の高級ホテルも次々と誘致されるなど、外国人を中心に宿泊者数も確実に増えています。

「奈良にうまいものなし」とよく言われま



興福寺



三輪そうめん

出典：奈良県景観資産より

すが、それは誤解です。柿の葉寿司、飛鳥鍋、吉野葛、三輪そうめん、天理ラーメンなど多々「奈良にうまいものあり」です。また、清酒発祥の地とよばれており、様々な日本酒をお楽しみいただけます。

2 奈良県の農業

奈良県の3分の2近くの面積は森林が占めています。このため耕地面積は19,600haと全国平均に比べ非常に小さく、農業産出額は391億円（全国45位）で、認定農業者数も957経営体（全国46位）となっています。しかしながら、県では奈良県豊かな食と農の振興計画を策定し、農業産出額の増加をめざして戦略的な販売の推進と生産振興に

取り組んでおり、農業法人数も毎年度着実に増加しています。今後はこれら法人による大規模で合理化・集約化された生産活動に期待がかかります。

主な農産物としては、実が大きく色がとてもあざやかなのが特徴の柿（全国2位）、施設栽培ではなく露地栽培が中心の小菊（全国2位）や二輪菊（全国1位）、平安時代に



柿



小菊



苺

弘法大師が中国から種を奈良に持ち帰って植えたといわれる大和茶（全国6位）などがあります。また、県ではいちごのブランド化を進めており、中でも奈良県オリジナルのブランドいちご「古都華」は、艶やかな赤色が特徴で糖度と酸味のバランスが良く濃厚な味わいで、たびたびメディアで紹介されています。

畜産物については、まだまだ出荷量は少ないですがオレイン酸が豊富で脂肪の口溶けがよい大和牛、ジューシーな味わいのやまとポーク、脂肪の蓄積が少なく弾力性のある大和肉鶏がブランド化されています。



大和茶ギフトセット

3 奈良県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事10名（うち常勤1名）、監事3名の役員13名、職員5名で、総務課と業務課の2課体制にて全国の中でも最少人数で業務運営を行っています。



4 奈良県農業信用基金協会の活動

平成11年4月に全国で初めての単一JA、奈良県農業協同組合が誕生しましたが、当協会の保証実績はJAの融資方針により大きく影響を受けるのが特徴です。JAの融資実績の割合の多くが住宅ローンであることから、保証残高の大半は住宅ローンが占めており、農業資金の割合は1割にも満たない状況となっています。銀行等の融資機関とも債務保証契約を締結していますが、その割合は極めて低いのが現状です。近年は行政機関及び融資機関と意見交換を重ね、勉強会を開催するなど農業資金の推進に取り組んでいます。令和5年度には、長期間取扱いのなかった農業近代化資金で保証実績をあげることができました。

今後も継続して取扱いを増やしていけるよう推進していきます。

一方、生活資金（主に住宅ローン）については、他保証機関との競合が課題で、当協会の取扱い割合は半分に満たないのが現状です。そのため、毎月ローン営業センターを訪問し、数ある要望に対しきめ細やかに対応することを心がけ、迅速な審査回答に努めています。

今後は、農業者の高齢化、農家戸数の減少等農業を取り巻く環境は厳しいものになりますが、意欲ある担い手の資金ニーズを敏感にくみ取り、奈良県農業の発展に貢献できる公的な保証機関として取り組んでまいります。